

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100021		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ蘇我サンフラワ-		
所在地	千葉県千葉市中央区南町3-3-15		
自己評価作成日	平成23年2月11日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成23年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まず第一に、地域密着サービスを心掛け、踊り・手品・傾聴など多くの地域のボランティアの方々に来ていただいている。加えて、高校生のボランティアも多く、その方々には、グループホームが、どんな所かを、体験いただいている。また、近くの公民館に、お花の稽古に行っている入居者もいらっしゃる。そのうえ入居者とスタッフで、地域の清掃活動にも参加し、入居者にも、地域に貢献できていると言う満足感が生まれる様支援している。第二には、一人ひとりの個性を尊重し、その方にあったケアを心掛けています。それには、ご家族との連携も大切にし、運営会議や、日頃の会話の中でも、改善できるところは、すぐにでも取り組んでいる。最後に、今よりも、すばらしいケアができる様に、スタッフの研修の機会を沢山もつけ、よりよいグループホームになるよう日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR蘇我駅から、徒歩7分の家族が訪問するのに便利なホームです。  
このホームの良い所は、利用者の健康管理に力を入れている事です。歯科医が毎週訪問し全員が診療を受け、職員により全員が食後の口腔ケアを受けています。利用者に応じて総合病院を使い分けしており、特に認知症に詳しい医師のいる総合病院を紹介し家族から感謝されています。利用者は日頃、口腔体操、リハビリ体操、梅干体操を行っています。また、現在看護師の採用を検討しています。  
また、地域密着を心がけ、地域の行事参加、清掃活動、各種ボランティアの受け入れ等を実施し、着実に地域に根ざして来ています。  
現在職員の研修に特に力を入れており、今後更にレベルアップするものと期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で話し合い、基本理念「海・自由・笑顔・ゆとり・地域・家族」を掲げ、1階は「地域で一番のグループホームを目指す」、2階は「地域の方とのふれあいを大切にする」を目標にして、日々努力している。またミーティング時には、理念の共有に努めている。	基本理念は職員皆で話し合い作成したもので、更に、ユニット毎に地域密着型サービスの意義をふまえた目標を掲げ、職員間の打合せ時に、皆で振り返って共有を図り、日頃のサービスで実践するように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の一員であることを意識し、地域の祭りや行事に参加している。また、公民館での習い事に通う入居者もいらっしゃる。ほかにも、踊り、傾聴ボランティアなど、地域の方と多くの交流がある。	町内会に加入し、祭り・敬老会等地域の行事に積極的に参加しています。各種ボランティアを受け入れ、公民館の習い事に通う利用者もいます。散歩しながらゴミ拾い等の地域に貢献する活動もしており、地域との交流を深めています。	ホームで、「介護相談」「介護関係の基礎知識説明会の開催」等を行い、更に地域に貢献することが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不定期ではあるが、散歩のときには、クリーンアップ活動として、ホームの一角の掃除を実施している。入居者の方にも地域に貢献出来ている、と言う満足感が生まれると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	複数のご家族の参加が得られる様に行事に合わせて、年3回開催し、評価結果は会議の中でも報告している。千葉市あんしんケアセンターや町内会会長にも参加をいただいている。そこでの、色々なご意見を参考にし、サービス向上に活かしている。	年3回、地域包括支援センター、町内会長、家族数名、管理者で開催し、ホームの活動状況、連絡事項、家族への協力依頼等を話し合っています。	従来の議題の外に、「外部評価の説明と課題の改善状況」「介護関係の基礎知識説明」「介護業界のトピックス(インフルエンザ対策等)」等を追加し、サービスの向上に活かせる話し合いの場となることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	変更届けの際などは、よく顔をだし、意見を交わすようにしている。また、ホームの運営等にも、千葉市高齢施設課の担当者に、相談している。	市担当には、必要な都度報告し、相談にのって頂いています。又グループホーム連絡会にできるだけ参加し、出席する市担当から情報を得て、サービスに役立っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修に参加し、それを伝達研修でスタッフ全員に周知している。その上で、1.切迫性2.非代替性3.一時性を確認し、ご家族に説明し、拘束廃止委員会を設置し、行うようにしている。	方針として身体拘束排除を謳い、マニュアルも作成し、職員は随時社内外の研修を受けています。交通量の多い道路に面しているため、日中でも玄関は施錠していますが、近日中に家族に説明する事を考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの上での虐待だけでなく、言葉による虐待がされていないかを管理者はじめ職員がお互いに注意し合っ、防止に努めている。今後も研修等を行い、意識を深めいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一名の方が、権利擁護の制度を利用し、任意後見人契約を結んでいる。今後も、制度について学びながら、後見人と、密に連絡を取り合っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたっては、ご家族も、不安が大きい。そこで、資料を用いながら、わかりやすく説明し、契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で入居者やご家族から出た意見・要望は、なるべく早く改善できるように努力している。また、改善後のフォローも、行っている。	家族の来訪時に声をかけ、要望や意見を聴き、運営に反映しています。多数の家族が出席する運営推進会議の場でも意見を伺うように努めています。実施例としては、利用者の生活ぶりを報告するお便り、個別の利用者への対応等があります。	家族には会議に出席できない方、事柄上人前では言い難いこと等もあるので、利用者個別に連絡帳を準備して希望等を記入しやすくし、書かれた要望等に迅速に対応していくことが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定期的にミーティングを行っている。また、申し送りやスタッフから出る個々の意見を常に聞きながら、反映させている。	管理者は、月1回の合同会議、カンファレンス会議等で、職員の意見を聴き運営に反映しています。実施例としては、喫煙箇所を1つにした事、利用者の排便のための投薬日の決定、口腔体操の実施、排便量基準の決定等があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時には、面談を必ず行い、管理者と職員との間で、給与・労働時間・やりがいなどについて話し合っている。管理者は、必要に応じ代表者に、職場環境・条件の整備への、要望を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や、エリア内での研修会などを通して、スタッフ一人ひとりの育成の機会を設けている。計画作成者には、介護支援専門研修の機会も勤務時間内での研修の扱いとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市のGH連絡会に参加し、交流を持つよう努めている。又、他のグループホームからの要望で、見学・意見交換等を行い、良いサービスを取り入れる努力も、忘れない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・相談時から、本人の話を聞き、何を求めているかを確認している。又、訴えのない方に対しては、よく観察し本人の訴え・要望を、汲み取る様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場からも、話を良く聴きながら要望を受け止めるよう努めている。安心して話せる雰囲気や信頼感が持てる様にもしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は、現在の状況や利用しているサービスなどの確認を行い、継続できるか又他のサービスで受けられる物があるかなどを検討しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ全員が、人生の先輩であることを常に頭に置き、生活を共有し過ごせるようにと、認識し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とも、連絡を取り合い情報を共有することで、本人を支えていけるように、配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきたものや、話の中で出てきた方、ご家族からの話など、あらゆる情報を集め、引き続き、大切にしていきたい人・場所の関係が途切れない様支援している。	昔お世話になった方の訪問や家族の訪れ、電話や手紙での連絡を取り持つ等繋がりが継続するよう支援しています。利用者によっては家族が墓参りや食事に連れ出すこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係を尊重しながらも、季節に応じた行事やレクリエーションなど全員でできるものも組み入れながら行っている。また、誕生会も、盛大にお祝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、ご家族から相談を受けている。その時は、本人の様子や、相談内容をよく聴いて相談・支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話などから本人の希望や意向を把握するようにしている。また一対一で話を聴き、思いを把握するよう努力している。スタッフ間でも、その情報の共有に努めている。	センター方式を活用する他、本人が機嫌よく話す散歩時や日頃の会話等から、利用者の意向の把握に努めています。利用者の得意技を尊重し、ハーモニカ演奏を披露する場や、職員や他の利用者も一緒に編み物を教わる機会を設けたりして、利用者本位の支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人やご家族と面接を行い、生活歴などの確認を行なっている。又担当ケアマネなどの関係機関があれば、連絡を取り今までの状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴を重視しながら、入居されてからは、一人ひとりの観察を行いそれを、常にスタッフに申し送り、把握するようにし、必要な支援が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、家族の希望を汲み取りながら、必要な援助ができるように計画を作成している。また定期的にモニタリングを行い本人の状況の把握を行っている。	計画作成者は、主治医の受診記録を基に、利用者、家族の希望や、職員の日々の生活での気づきを織り込んで、介護計画を作成します。毎月カンファレンスを行い、原則3ヶ月毎、更に必要に応じて随時、見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌・経過記録には、ケアの実践・結果を記録し、気づきや工夫を、申し送りに記入し、情報を共有している。最終的に見直した点を介護計画に生かし、ケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に観察することを怠らず、新しいニーズに柔軟に対応できるように、より多くのサービス情報の収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴のボランティアをはじめとし、公民館でのお花の稽古など、本人の暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、入居前に本人や家族の希望を確認し、それに沿うように柔軟に対応している。必要に応じて家族の代わりに付き添う介助も行っている。	入居時に利用者、家族に従来のかかりつけ医を利用するか、協力病院での受診にするかを話し合っています。基本的に通院は家族の対応でお願いし、状況に応じ職員が付き添うこともあります。また、週一回訪問歯科診療を実施しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院時などで受診した際には、看護師にも相談しながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状況を出来る限り、医療機関に伝えている。また、退院時には、スムーズにホームに戻ることができるように、医師・看護師・PT等と情報を交換しながら、ホームで活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、対象の方はいないが、いつでも対応できるように、どのような訪問による医療機関があるのかを、調べている。	入所時に、重度化し終末期に医療行為が必要になった場合には、ホームでは対応できないことを説明しています。現在終末期の利用者はいませんが、ホームでは看護師の採用検討や協力をお願いできる医療機関の情報収集等、終末期対応について少しずつ準備を始めています。	終末期に対応するために、利用者、家族の意向を聞き取り、重度化に伴う意思確認書を作成し、職員のターミナルケア研修会や医療機関との連携体制を検討することが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に夜間の対応については、連絡網をリビングに貼付け体制作りを行っている。夜間の緊急時には近所に住んでいる職員が、駆けつけてくれるような体制になっている。また、応急手当の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H22年4月に消防署立会いのもと、避難訓練を実施。又、H22年12月には、スプリンクラーも完備し、避難体制も、万全である。	平成22年4月に消防署立会いの訓練、11月に自主訓練を実施しています。スプリンクラー、火災報知器、消火器が設置され、緊急時の対応表、連絡先が掲示されています。備蓄はされていない状況です。	自主訓練は、夜間想定で行い、近くに住む職員の駆けつけや町内会の人達にも協力をお願いする等、実際的な訓練を行い、又3日分程度の飲料・食料の備蓄をしておくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重するよう接遇・言葉使いには、気をつけ、スタッフ同士で注意し合っている。また、研修も行っている。	プライバシーや接遇に関する研修会等を行い、職員全員に周知しています。また、接遇面では、言葉遣いや態度、挨拶、身だしなみ等に気をつけ、利用者一人ひとりに合わせた声かけや対応などを考え支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のペースに合わせた言葉掛けや、聴く姿勢をもつようにし、出来る限り本人の意見・意志が言えるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて、希望・意見を聴き、それを出来るだけ、取り入れながら、援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聴き入れた上で、その人らしさが出るように、援助している。また、季節や、暑い・寒いなども、考慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が出来る方は、準備の段階から、参加いただき、季節感のある料理や、行事食なども、盛り込んで、食べることの楽しみを、十分味わっていただいている。	栄養バランスを考慮した献立に基づき、福祉食材を業者が納入しています。利用者は、野菜の下ごしらえ、盛り付け等能力に応じて、職員と一緒に、旬の食材を取り入れた料理や行事食、誕生日メニューを取り入れ、利用者から喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態・習慣に合わせて、摂取カロリーや、水分量などを調整している。特に医師より指示があり制限をうけている方については、十分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず、全員の口腔ケアを行っている。また、訪問歯科による、定期健診により、常に健康な口腔内を保つ様、努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、時間をみて、なるべく失禁することがない様に声掛け誘導をしている。	In, outチェック表で摂取水分量、排泄のパターンや排便の量の基準を決めて記録し、職員間で共有しています。夜間は安全面に考慮してポータブルトイレを使用したり、手引き誘導を行う等、記録を参考に一人ひとりに合わせた排泄支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に便秘がちの方は、食事の献立に野菜を多く取り入れると同時に、水分も多く取る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に、必ず本人の了解をいただいている。その時に、(後にしてください。)の訴えがあれば、後での入浴としている。また、入浴時の会話も楽しんでいる。	入浴は一日おきに職員が声かけを行い、利用者の好きな時間に気持ちよく入浴ができるよう支援しています。また、季節の行事湯を楽しんだり、会話を大切にしています。立ち上がりが出来ない利用者には2人介助を行い、安全面に考慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴同様、必ず本人の意思・希望を尊重し、その時々、休息・睡眠をとるように配慮している。夜寝むれない方には、日中の活動に工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬情報のファイルで確認して、処方が変わった時には、スタッフ全員に周知している。その後の症状の変化についてもよく観察して、それを、医師や家族に伝え、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にあわせて、洗濯・調理・掃除など、スタッフと一緒に楽しみながらできるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調にもよるが、散歩や買い物など出掛ける機会を多くするよう心掛けている。また、行事を予定し、車での、外出も行う。	天気の良い日には、クリーン活動をしながら散歩に出かけたり、編み物で使う毛糸等を買に出かけます。公民館でのお花の稽古へ定期的に通っている利用者もいます。ショッピングモール、外食、初詣等皆で遠出を楽しんでいます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、ホームで、お金を預かっている方や、本人が、お金を持っている方は、いらっしやらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にも配慮しながら、本人の希望に応じて、やり取りできる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、定期的に掃除を行い、季節の花などを、飾ったりしている。また、行事の写真・習字・貼り絵などを飾り暖かな雰囲気を感じられるようにしている。	居間は、明るく、清潔で、ゆったりとしており、利用者が快適に過ごせるように配慮されています。季節の花が飾られ、壁には行事の時の写真、季節に応じた貼り絵、可愛いアナグマの絵、利用者の力作の習字が貼られ、季節感、生活感を感じます。現在プリンターで、花壇作りを検討中です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は、それぞれの居室で過ごされている。また、リビングの畳に腰掛け、一緒に洗濯物をたたんだり、気の合った者同士で話をしたりと思い思いに過ごせるよう、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで使われていた家財道具をお持ちいただくよう説明しているが、入居に合わせて新調される方が多い。家族の写真や昔の写真を飾ったり、今まで使った小物などは、使っていただいている。	利用者は、馴染みの物を自分の部屋に持ち込み、自分の家のように過ごしています。衣類等は職員が整理し、家族に不要になった物を持ち帰って頂くこともあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下などには、必要なところには手すりがあり、また車椅子の方でも快適に過ごせるように、施設内は全てバリアフリーが工夫されている。		